別記様式第７号

学位論文審査の結果の要旨	
氏　　名	大　森　貴　裕
審査委員署名	主　査　町田　登 副　査　佐々木一昭 副　査　福島隆治 副　査　竹山秀幸 副　査　山崎真大 ＊　審査委員が５名を超える場合は，記入欄を追加して作成してください。
題　　目	犬の徐脈性不整脈に対するシロスタゾールの有用性に関する臨床的研究
審査結果の要旨（1,000 字程度）	

徐脈性不整脈により臨床症状を呈する犬に対して，根治的治療となるペースメーカ植込みを選択できない場合も多い。近年ではシロスタゾールの投与が有効であったとの報告もあり，治療の選択肢として注目されている。しかし，これまで犬において，徐脈性不整脈治療薬としてのシロスタゾールに関する研究成果は限られており，その詳細は明らかにされていない。本学位論文は，徐脈性不整脈を呈した犬に対するシロスタゾールの適切な薬用量を検証すること，ならびにそれに伴う副反応や適応となる不整脈の種類について検討したものである。

第1章では，徐脈性不整脈を呈した犬のうち，シロスタゾールの投与を受けた症例を対象に，後ろ向き研究デザインにて統計解析を実施している。計59例の解析結果を踏まえ，1回あたり10 mg/kgを至適用量と結論付けている。また，第3度房室ブロック（AVB）と診断された犬は，他の徐脈性不整脈と比較して予後が悪く，シロスタゾールによる治療反応性も劣っていることが示されている。

第2章では，シロスタゾールの抗血小板作用について，全血血栓形成能解析装置と頬側粘膜出血時間を用いて評価している。健常犬において，至適用量のシロスタゾールの投与前後に各計測結果の変化は認められず，一次止血機構の抑制が確認されなかったことを示している。したがって，至適用量のシロスタゾールは犬の止血機能へ影響する可能性は低いと結論付けている。

第3章では，実験的に作出したAVB犬に対して，至適用量のシロスタゾールを投与し，その前後の変化を各種循環器機能検査によって評価している。作出に成功した3頭のうち，2頭は第3度AVB，1頭は第2度AVBであり，すべての犬で投与後のP波の数が増加している。さらに第2度AVB犬と第3度AVB犬のうち1頭で総心拍数も増加しており，房室間伝導が残存している場合だけでなく，完全に遮断されている場合においてもシロスタゾールは心室拍動数を増加させる可能性があると結論付けている。

本研究のように，犬の徐脈性不整脈に対する内科的治療薬としてのシロスタゾールに焦点を当て，その有用性について大規模の症例を対象として検討した報告はこれまでになく，本研究により得られた知見は新規性が極めて高いものと考えられ，また，学術的ならびに臨床的意義も高いものと判断された。

以上について，審査委員全員一致で本論文が東京農工大学・岩手大学共同獣医学専攻の学位論文として十分価値があると認めた。